

2021 年度秋学期授業評価アンケート集計結果について

2022 年 9 月 26 日

教育支援部長

設問について

設問は全部で 10 あるが、問 1 から問 9 までは 4 つのカテゴリー、「A：履修者の自己評価」「B：シラバスについて」「C：担当者と授業について」「D：授業の成果について」に分類される。これに加えて、問 10 として自由記述を設けている。これにより、幅広く学生の意見を聴取すること意図である。

この結果をもとに、科目担当者はシラバスの振り返り項目にレスポンスを記入することになっている。

設問区分	設 問	
A	問 1	私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。
	問 2	この授業の授業時間外の学習時間（授業 1 回ごとの平均） ① 4 時間以上 ② 3～4 時間 ③ 2～3 時間 ④ 1～2 時間 ⑤ 30 分～1 時間 ⑥ 30 分未満
B	問 3	私は、この授業を履修する際、何を学習するかを理解するために、シラバスを読んだ。
	問 4	担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。
C	問 5	授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。
	問 6	授業の内容はわかりやすかった。
	問 7	授業の進度は適切だった
	問 8	授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言を与えたり質問に答えたりしてくれた。
D	問 9	総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。
自由記述	問 10	授業をよりよくするために、担当教員やこの授業について良かった点、改善すべき点があれば書いてください。

設問に対する回答（問1および問3～問9）は、以下の選択肢から選ぶように求めている。

回答内容	マークシートの番号
強くそう思う（Agree Strongly）	①
そう思う（Agree）	②
どちらかといえば そう思う（Somewhat Agree）	③
どちらかといえば そう思わない（Somewhat Disagree）	④
そう思わない（Disagree）	⑤
全くそう思わない（Disagree Strongly）	⑥

以下、分析は「教養教育科目」「専門教育科目」「言語教育科目」のカテゴリーごとに設問の問1～問9について個別に行う。問10については自由記述のため、上記の3つのカテゴリーをまとめて分析する。

分析結果によるコメントを最後に全体のまとめとしてのコメントを記載する。

教養教育科目について

科目登録人数 1666 人のうち、有効回答の割合は 73.6%。以下、設問ごとに集計結果の分析を行う。

問1 私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。

①から③までの回答が、全体の 94.8%を占めており、回答したほとんどの受講生が自主的かつ意欲的に取り組んでいることがわかる。さらに言えば、①と②だけでも 81.1%である。この数値はいずれも春学期から上昇している。

問2 この授業の授業時間外の学習時間

授業外学習時間が 2 時間以下の割合が非常に多く、全体の 79.9%と 8 割近くに及んでいる。教養教育科目のほとんどは 1 科目 2 単位であるので、授業外学習時間は 1 回の授業あたり 4 時間を要すると定めている。4 時間以上と回答した学生は 2.4%にとどまっている。

問3 私は、この授業を履修する際、何を学習するかを理解するために、シラバスを読んだ。

①から③までの回答が全体の 91.6%であり、全体の 9 割を超えていることから、シラバスの事前理解の必要性は十分に学生たちに浸透しているといえる。

問4 担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。

①から③までの回答が全体の 94.8%であり、問題なく当該設問に対しては対応できていると思われる。

問5 授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。

①から③までの回答が全体の 92.3%と、9 割を超えていることから、当該設問については問題なく対応できていると判断する。

問6 授業の内容はわかりやすかった。

①から③までの回答が全体の 93.6%であり、9 割を超えている。このことから当該設問に対して十分に対応できていると判断する。

問7 授業の進度は適切だった。

①から③までの回答が全体の 96.0%であり、受講生のほとんどが「適切」であると判断しているといえる。

問8 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言を与えたり質問に答えたりしてくれた。

①から③までの回答が全体の 90.6%であることから、授業担当者は授業内外において適切な教育環境の維持に努め、その成果が表れていると思われる。

問9 総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。

①から③までの回答が全体の 94.3%であり、学生にとって適切な授業提供が行われていると判断できる。

専門教育科目について

科目登録人数 1704 人のうち、有効回答の割合は 47.4%。以下、設問ごとに集計結果の分析を行う。

問1 私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。

①から③までの回答が、全体の 97.1%を占めており、回答したほとんどの受講生が自主的かつ意欲的に取り組んでいることがわかる。さらに言えば、①と②だけでも 86.7%である。

問2 この授業の授業時間外の学習時間

授業外学習時間が 2 時間以下の割合が非常に多く、全体の 79.9%に及んでいる。専門教育科目は原則として 1 科目 2 単位であるので、授業外学習時間は 1 回の授業あたり 4 時間を要すると定めている。4 時間以上と回答した学生は 3.6%にとどまっている。

問3 私は、この授業を履修する際、何を学習するかを理解するために、シラバスを読んだ。

①から③までの回答が全体の 88.4%であり、シラバスの事前理解の必要性は十分に学生たちに浸透しているといえる。

問4 担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。

①から③までの回答が全体の 95.9%であり、問題なく当該設問に対しては対応できていると思われる。

問5 授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。

①から③までの回答が全体の 92.9%と、9 割を超えていることから、当該設問については問題なく対応できていると判断する。

問6 授業の内容はわかりやすかった。

①から③までの回答が全体の 93.9%である。このことから当該設問に対して十分に対応できていると判断する。

問7 授業の進度は適切だった。

①から③までの回答が全体の 95.2%であり、9 割以上の受講生が「適切」であると判断しているといえる。

問8 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言を与えたり質問に答えたりしてくれた。

①から③までの回答が全体の 93.9%であることから、授業担当者は授業内外において適切な教育環境の維持に努め、その成果が表れていると思われる。

問9 総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。

①から③までの回答が全体の 95.9%であり、学生にとって適切な授業提供が行われていると判断できる。

言語教育科目について

科目登録人数 2122 人のうち、有効回答の割合は 68.9%。以下、設問ごとに集計結果の分析を行う。

問1 私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。

①から③までの回答が、全体の 96.2%を占めており、回答したほとんどの受講生が自主的かつ意欲的に取り組んでいることがわかる。さらに言えば、①と②だけでも 86.1%である。

問2 この授業の授業時間外の学習時間

言語教育科目は一部の授業を除き 1 科目 1 単位であるので、1 回の授業に求められる授業外学習時間は 1 時間と定めている。1 時間以下の学習時間と回答しているのは全体のうち 32.1%であることから、7 割近くの学生が十分に授業外での準備を行っていると思われる。

問3 私は、この授業を履修する際、何を学習するかを理解するために、シラバスを読んだ。

①から③までの回答が全体の 90.8%であり、シラバスの事前理解の必要性は十分に学生たちに浸透しているといえる。

問4 担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。

①から③までの回答が全体の 95.5%であり、問題なく当該設問に対しては対応できていると思われる。

問5 授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。

①から③までの回答が全体の 94.1%であることから、当該設問については問題なく対応できていると判断する。

問6 授業の内容はわかりやすかった。

①から③までの回答が全体の 93.9%である。このことから当該設問に対して十分に対応できていると判断する。

問7 授業の進度は適切だった。

①から③までの回答が全体の 95.1%であり、9 割以上の受講生が「適切」であると判断しているといえる。

問8 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言を与えたり質問に答えたりしてくれた。

①から③までの回答が全体の 95.1%であることから、授業担当者は授業内外において適切な教育環境の維持に努め、その成果が表れていると思われる。

問9 総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。

①から③までの回答が全体の 94.7%であり、学生にとって適切な授業提供が行われていると判断できる。

自由記述について

問 10 授業をよりよくするために、担当教員やこの授業について良かった点、改善すべき点があれば書いてください。

自由記述にコメントを付してくれていたのは有効回答数 5493 のうち、50.7%であり、春学期と比較すると若干増加している（前学期は 47.4%）。全体の 6 割近くは「特にありません」といったようなコメントであり、また 3 割弱は教員に対する謝辞だった。したがって、全体のうち 1 割程度により詳細なコメントが書かれていたことになる。「特にありません」あるいは謝辞以外のコメントの中でも、そのうちの大半は授業の内容や教員に対して好意的なものだった。

批判的と思われる内容についてであるが、そのうちの多くがオンライン授業に関連する指摘だった。秋学期は学期の最後 2～3 週間をオンライン授業にしたため、この種の指摘が多かったと推察する。オンライン授業に関しては、教員側も学生側もまだ不慣れなところもあり、今後改善の余地があると思われる。それ以外では、春学期同様、教員からの発言を快く思わないもの、授業内における指示の不徹底などが数件見られたが、その内容については教育支援部で協議を行い、必要に応じて担当教員と面談を行い、改善を求めている。

コメント

全体としては肯定的な回答がいずれの設問においても9割前後であり、様々な大学側からの要請に対しては十分に対応できていると判断できる。春学期と比較した場合、多くの項目で好意的な数値が向上しており、またそうではない項目についても春学期とほとんど同じ数値、あるいは微減にとどまっている。カテゴリー別では、これも春学期同様に「言語教育科目」の数値が、「教養教育科目」「専門教育科目」と比較して高い結果となっている。理由も同様であると考えられる。

自由記述の回答に関して、指摘が多かったのは前述のとおりオンライン授業にかかわるものであり、今後改善の必要があるだろう。ただ、できるだけ対面での授業実施を目指して対応していることから、この種の指摘は減少するものと思われる。春学期同様に、コメント全体について教育支援部においても個別に精査しており、特に問題のあるコメントについては、必要に応じて担当教員と面談を行い、問題の解決を目指している。ただ、多くの回答は担当者に対して好意的な回答、あるいは「特にありません」という回答であることから、受講生は概ね肯定的にとらえてくれているものと判断する。

今後このアンケートの結果をよりよく活用するための方策として以下の点を関連部署で検討を行う。

① 回答率の向上

回答率が全体でも6割にとどまっていることから、向上させる取り組みを行う必要がある。回答方法について教育支援課で協議を開始している。

② 授業外学習時間の確保

特に「教養教育科目」「専門教育科目」における数値が低いことに注視し、これを向上させる方策を検討する。後述の「振り返り」の箇所にも、授業外学習時間を担保するための工夫について今後は記載を担当者にお願いする方向で調整を行っている。

③ 担当者からのフィードバック

現在、担当者は授業の振り返りを記載することになっているが、記載項目をいくつか指定することで、より効果的なフィードバックになるよう検討を行っている。

以上